遠山椿吉（ちんきち）

16歳で医学の道を志した、わが国の細菌学界の草分け

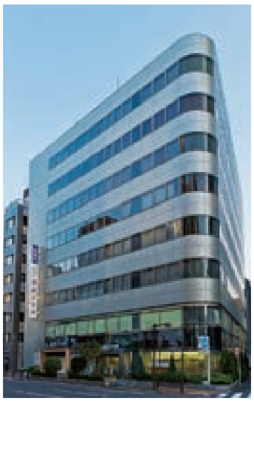
遠山椿吉は安政4年、山野辺村の遠山元長（げんちょう）の長男として生まれました。生家は医師であった父の名から「ゲンチョウサマ」と呼ばれ、椿吉の兄弟もそうであったように代々医者の家でした。遠山家は家塾（寺子屋）を開いていたため、椿吉も幼い頃から漢籍を学んだといいます。そして17歳の時、山形県病院（済生館の前身）で海瀬敏行院長から英学と医学を学んだことが、医学への道を志すきっかけとなりました。

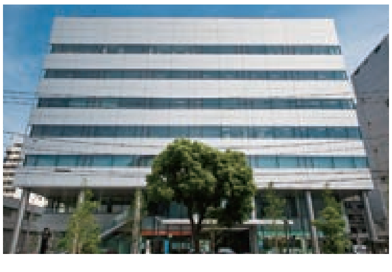
やがて上京してドイツ語を学び、明治16年に東京大学医学部を卒業。医師となって帰郷した椿吉は、山形県立病院済生館医兼医学寮長となり、医療と医学生の養成に努めました。

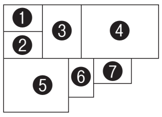
明治21年、再び上京した椿吉は東京医科大学撰科を経て帝国医科大学で、衛生学と黴菌学（ばいきんがく）の研究に打ち込みます。明治24年には、「東京顕微鏡院（設立当初は東京顕微鏡検査所）」を設立し、医学医療技術者の養成、医学検査、予防医療の実践普及など多岐にわたる活動を推進しました。そのかたわら、東京市衛生試験所の初代所長となり、衛生行政に大きな足跡を残すなど、昭和3年、71歳で他界するまで、公衆衛生の発展に寄与したのです。

「東京顕微鏡院」と、山辺町の子ども達との交流

東京顕微鏡院の百二十周年を機に、山辺町の子ども達が夏休み「子ども研究者体験セミナー」に招待されることとなりました。毎年の受講が3年目を迎えた平成27年、山辺町では初めて町主催で「やまのべ教育の日、東京顕微鏡院理科実験出前講座」を実施。講師には「東京顕微鏡院 食と環境の科学センター」から6名を招き、新築まもない山辺中学校の理科室を会場に開催しました。町内の小学4～6年生34名が顕微鏡による微生物の観察など、身近な世界をテーマに実験を体験しました。このように、山辺町では遠山椿吉に由来した交流が続けられています。







❶❷山辺中学校で行われた「東京顕微鏡院理科実験出前講座」❸椿吉は華道や朝顔作りなどの多彩な趣味を持っていました。❹❺明治29年当時の東京顕微鏡院と実験室。❻こころとからだの元氣プラザ（東京都千代田区飯田橋）※東京顕微鏡院の医療部門をルーツとする医療法人。❼東京顕微鏡院 食と環境の科学センター 豊海研究所（東京都中央区豊海町）